



京都 也阿弥ホテル

The Yaami Hotel

[古写真DATA] 長崎大学附属図書館蔵

写真名称：円山也阿弥ホテル⁽¹⁾
 英語名称：Maruyama Yaami Hotel
 目録番号：62
 撮影者：日下部金兵衛
 アルバム名：日下部金兵衛アルバム
 撮影地域：京都
 年代：年代未詳
 色彩：カラー
 形状：263x203
 整理番号：2 13 0
 キーワード：近代建築/眺望

古写真に見る

近代ホテルの黎明期

2

工学部教授

岡林 隆敏

Okabayashi Takatoshi

明治初期の外国人にとって、京都は日本の都市の中でも天皇が住んでいた聖なる都で、街全体が寺院で埋め尽くされ、神秘に満ちた訪れたい都市であった。京都の最初の外国人用の宿泊施設として「中村楼」が明治初年に開業した。明治10年(1877)、草野大吉が京都に「自由亭ホテル」を進出させた。草野大吉は幕末に、長崎で日本で最初の西洋料理店を開いた人物である。明治2年(1869)、五代友厚(後に大阪商法会議所初代会頭)に請われて、大阪で「自由亭ホテル」を開業し、京都のホテルはその支店であった。

はなく、カーテンにより仕切られていた。写真は明治20年代の「也阿弥ホテル」を撮影したものである。小説「お菊さん」で知られているフランスの小説家のピエール・ロチは、明治18年(1885)、35歳のとき「也阿弥ホテル」で泊まったことを「秋の日本」で記している。「英国風に普請したばかりの真新しい本物のホテルであるらしい」「也阿弥では、食事は大そう正確な英国流ときめられている。ごく小さなパン切れと、真赤な焼肉と、茹でた馬鈴薯……」

た、ロシア皇太子ニコライ2世が宿泊した。ニコライ2世は、戦艦アゾワール号で4月27日に長崎市に寄港したばかりであった。「也阿弥ホテル」は、その後、2度の火災を起こし、明治43年(1910)に廃業し、京都のホテル界で活躍した長崎出身の井上兄弟の時代は終わる。

明治も中期になると、ヨーロッパ航路、北米航路、加奈陀東洋航路が確立され、また東海道線はじめ国内の鉄道網も完備され、日本の近代化は速度を増す。居留地から始まったホテルの建設は、東京・大阪・京都に広がり、さらに、在留外国人の避暑のためのリゾートホテルに向かう。

明治12年(1879)、長崎出身のガイドであった井上萬吉が京都丸山公園内に「也阿弥ホテル」を開業した。このホテルは、円山の安養寺の三坊(端ノ寮、連阿弥、也阿弥)を買収し、日本座敷を洋室に改造したもので、室数40、照明は石油ランプ使用、室にはドア

【幕末明治期日本古写真画像データベース】

<http://oldphoto.lib.nagasaki-u.ac.jp>

参考 富田昭次、ホテルと日本近代(青弓社)